

市民にとって安心な市立病院は600床規模でこそ

市長が設置した「松戸市立病院建替計画検討委員会」から、市立病院の「現地建替えは非常に困難である」という
答申が出されました。

これに対し、市長は、「答申を尊重する」と言いながら、「私の考えとは違つ」と、新市立病院は「超急性期病院」とし、四五〇床に縮小した現地建替え案など、東松戸病院の建替えを含めた、八つの「構想案」を示しました。しか

し、議会内外の大きな批判のなかで、市長は、四五〇床での現地建替えに固執しないと云々ざるを得なくなっています。

日本共産党は、以前から「新市立病院は現在の機能・規模の堅持を」という立場で、住民や医療関係者とも懇談を重ねきました。八月七日のシンポジウムは、日本共産党のみわ由美元県議の司会ですすめられ、新病院の規模と機能はどうあるべきかなどが話し合われました。



パネラーは松戸市医師会理事の山口卓秀さん、開業医で医学博士の和座一弘さん、東松戸病院・梨香苑を守る会の松岡美多子さん、元患者で上本郷在住の鶴岡信さん、そして日本共産党の伊藤余一郎市議の5人。それぞれの立場から、救命救急、小児周産期医療、がん治療連携拠点など、松戸市立病院が東葛北部医療圏で果たしている大切な役割を果たすためには、どうしても600床が必要なことが強調されました。

会場の参加者からは、「赤字で市民の税金が投入されている。もっと経営の面も考えるべき。」という意見も出され、これに対しパネラーからは、「市立病院への税金投入は、法定内繰り入れ(*)と言い、必要経費です。それ以上の赤字は病院の責任で、改善しつつあります」「消防署は1銭も稼ぎませんが、必要だから税金投入は問題になりません」と回答があり、大きな拍手が起こりました。

* 法定内繰り入れ…不採算医療を支える公立病院の経営安定のため、国の基準にもとづく一般会計を通じた病院会計への繰り入れ。(公立病院をもつ自治体には、基準にもとづき国から交付税が入る。)

松戸医師会理事
山口卓秀さん

市立病院は①救命
救急センター②地域が

ん連携拠点病院③小児医療連携拠点病院などの機能をもつ東葛北部医療圏で唯一の中核病院。最後の砦だ。急性期総合医療と小児周産期医療の両機能を備えた六〇〇床規模(成人四五〇+小児周産期一五〇)は絶対必要です。

開業医(小児科)
和座一弘さん

高度小児医療には、
脳外科や心臓外科、麻

酔科、整形外科など様々な科の協力体制が必要。松戸市では救急車のたらいまわしもなく、小児の来院時心肺停止救命率は六四%で、全国平均の二倍以上とダントツに高い。それには六〇〇床、現市立病院の病床規模が必要で

東松戸病院・梨香苑を
守る会 松岡美多子さん

総合病院の中に介
護施設があるという

貴重な東松戸病院・梨香苑がなくならないうちに地域運動を進めている。私自身も髪のカットのボランティアを一五年続けている。市立病院の建替えを機に東松戸病院・梨香苑がどうなるか心配。必ず残してほしい。

元患者(上本郷)
鶴岡信さん

私は一〇年ほど前に
トラックにはねられ頭

蓋骨、腕、両足骨折と瀕死の重傷で市立病院に入院。神経内科、整形外科、脳外科など七科が対応してくれ、リハビリは東松戸病院へ通った。六〇〇床のトータルな医療があったから生きられた。地元公立病院を残してほしい。

日本共産党
伊藤余一郎市議

市長は、市立病院は
赤字だからと四五〇

床にしようとしている。赤字の要因は国の医療制度改善による診療報酬引き下げと医師不足などにあり、公立病院事業への国の交付税も大幅に削減されている。議会でも六〇〇床規模は必要というのが多数。市民合意で一日も早く移転建替えをすすめてほしい。

参加者の感想
●600床の必要性がよく理解できました。市長は県や国に支援を要請すべきです。(横須賀、男性)
●市立病院がどんなに素晴らしい病院か分かりました。600床をぜひ守ってほしい。市民にも、もっと知ってほしい。(松戸、女性)
●小児医療の素晴らしさが分かった。地域の人に知らせたい。(高塚、女性)

150床減の超急性期病院でいいのでしょうか

「超急性期病院」とは？

第3次救急、急性心筋梗塞、急性心不全、脳出血などに対応し、全身麻酔での手術など、急性期での専門領域での医療を駆使し、平均10日前後の在院日数を目標に集中的な医療を行う病院。(松戸市の定義の要約)

高度医療に特化し、医師も看護師も常に緊張状態に置かれる「超急性期病院」は、市民の身近な市立病院として、ふさわしいのでしょうか。

なぜ「超急性期病院」に？

600床を擁する松戸市立病院は、多くの分野の専門医の連携により総合的な治療を行う、市民にとってたいへん頼もしい病院です。さらに、全国から多くの研修医を受け入れて育てるといった大切な役割も担っています。

市長は、現地建替えに固執するあまり、こうした機能と役割を軽視し、「超急性期病院なら450床で大丈夫」と市立病院の性格まで変えようとしています。

建替えは「答申」尊重し市民合意で

日本共産党は、「松戸市立病院建替えに関する答申書」を尊重し、機能と規模を維持して早期に建替えに踏み出すべきと考えています。

そのうえで、現市立病院周辺住民も、紙敷や高塚新田周辺住民も身近な公立病院を頼りにしていることを重視すべきです。民営化の検討はキツパリやめるべきです。建替えを機に東松戸病院に併設の介護老人保健施設「梨香苑」の廃止を強行することは許されません。

松戸市立病院は、「答申」を尊重し、機能と規模を維持・充実し、市民合意を得て早期に建替えを！

市の8構想案について、主なメリット、デメリットをお知らせします。

市長推奨案

構想案	構想1	構想2	構想3	構想4	構想5	構想6	構想7	構想8
市立病院建替地 病床数	運動公園 600床	千駄堀 600床	千駄堀 600床	紙敷66街区 600床	現東松戸病院敷地内 600床	現市立病院敷地内 450床	現東松戸病院敷地内 450床	千駄堀 450床
東松戸病院建替地 病床数	現東松戸病院敷地内 200床	現東松戸病院敷地内 200床	現市立病院敷地内 200床	現東松戸病院敷地内 200床	現市立病院敷地内 200床	現東松戸病院敷地内 250床	現市立病院敷地内 200床	現市立病院敷地内 200床
メリット	工期中の減収・環境悪化がない。環境がよく、移転が容易。	工期中の減収・環境悪化がない。	工期中の減収・環境悪化がない。	工期中の減収・環境悪化がない。建替え期間が最短。	工期中の減収・環境悪化がない。上本郷にも高塚新田にも公立病院が残る。	費用が安い。上本郷にも高塚新田にも公立病院が残る。	費用が安い。上本郷にも高塚新田にも公立病院が残る。	工期中の減収・環境悪化がない。
デメリット	野球場の代替地の確保まで工事着手が遅くなる。代替地費用がかかることもある。	用地買収で工事着手が遅くなる。地盤の調査必要。用地買収費用もかかる。	用地買収で工事着手が遅くなる。地盤の調査必要。用地買収費用も。高塚新田に公立病院残らず。	建設費が高い。上本郷に公立病院が残らず。	第3次救急病院が医療圏の端。	工期が長い。工期中の減収・環境悪化がある。新病院の性格が変わる。	第3次救急病院が医療圏の端。新病院の性格が変わる。	用地買収で工事着手が遅くなる。高塚新田に公立病院が残らず。新病院の性格が変わる。

※市の答弁でも構想4以外の建設費は流動的なため、データから除外しました。